

## 第17回伊東市子ども・子育て会議議事録

日 時 令和元年9月10日(火) 15:00~16:00  
場 所 伊東市役所 議会室  
出席者 委員11名、参与2名、事務局5名

### 1 開会

(次第に記載されている順番が変更。議題、報告事項の順番で行う。)

### 2 議題

#### (1) 副会長の選任について

副会長の選任について

- ・委員 伊東市公立保育園園長会代表の高橋委員を会長に推薦します。

(委員異議なし)

高橋委員、副会長に就任

#### (2) 子ども・子育て支援事業計画について(資料P23~24資料に沿って説明。)

##### ア 平成31年度幼稚園・保育園入園状況について

幼稚園の入園状況について、令和元年5月1日現在入所定員656人のところ541人の在園となっている。保育園の入園状況について、公立と私立を含めて利用定員527人のところ522人在園が決定となっている。1・2歳児の入園状況については、小規模事業所及び認可外保育施設(たんぽぽ保育所、夢きらら保育園の市の地域枠としてそれぞれ3人計6人)が含まれ、利用定員306人のところ293人在園となっている。0歳児については、公立及び私立、小規模保育所合わせて96人の利用定員のところ91人となっている。

##### イ 平成30年度地域子ども・子ども子育て支援事業の実施状況について(確定)

(資料P25~27資料に沿って説明。)

##### ウ 第2期伊東市子ども・子育て支援事業計画について

###### (ア) ニーズ調査結果について

第2期の伊東市子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたっての調査となっている。調査方法について、調査対象は就学前児童のいる世帯(4~5歳児)2,044世帯、小学生児童のいる(小学校1~6年生)世帯2,081世帯に平成31年2月に調査を実施。回収率は、就学前児童のいる世帯は71.9%、小学生児童のいる世帯は88.0%であった。

内容については(いくつかを抜粋して説明)、問4・5のこの調査にお答えいただく方はどなたか及び何歳代かについての問いに母親93.7%、35~39歳29.8%との回答が最も多く、問8お子さんの祖父母との近居状況について6~7割程度の方が祖父母が近居にいると回答した。

問9調査票回答者の配偶関係について、約1割の方がひとり親家庭となっている。問13保護者の就労状況について父親はフルタイムでの就労で、育休・介護

休業中でないについて97.6%、母親はフルタイムでの就労で、育休・介護休業中でないについて30.2%、パート・アルバイト等（フルタイム以外）で就労しており、育休・介護休業中ではないについて32.9%、以前は就労していたが、現在は就労していないについて25.4%という結果となっている。5年前の調査結果（母親の就労状況について）と比較するとフルタイムでの就労で、育休・介護休業中でないについて24.4%、パート・アルバイト等（フルタイム以外）で就労しており、育休・介護休業中ではないについて29.9%という結果となっており、5年前と比較すると就労している方の割合が増加となっている。

問15お子さんの平日の教育・保育の事業として毎月利用したいと考える事業について、保育園63.7%、幼稚園50.3%であり、5年前の調査が保育園45%、幼稚園51%の結果から保育園の利用を希望する方が増加していることがわかる。

問15-8幼児教育・保育の無償化により幼稚園や3~5歳の保育園の利用料について無償化、あるいは、利用料の減額がされた場合、無償化などを理由として、幼稚園から保育園への利用の変更をしたいと思うかについて、幼稚園から保育園に利用変更したいについて26.9%の結果から4人に1人が利用変更したいということが見られる。

問28育児休業の取得状況（母親）について働いている方のみで見ると3人に2人は育児休業していることがわかる。全国平均をみると8割の方が、育児休業を取得しているという結果が10年近く続いている状態。同様の内容について、父親は1%程度の結果となっている。なお、5人以上の従業員のいる事業所が対象となっているため伊東市の場合は3人に2人という結果となりますが、本ニーズ調査ではそういった制限は設けていないためもう少し割合が高くなると考えられる。

問31あなたは子育てをしていて楽しいと思いますかについて、今後少子高齢化問題を考えるにあたり、重要な内容と考えられる。95%ほどの方が子育てを楽しいと感じている結果となった。さらに父親母親で分けると、父親約97%、母親約93%が楽しいと感じていると回答していた。また、楽しいと感じることについて（複数回答可）は子どもが成長すること、子どもを持つ喜びが実感できたこと、子育てを通じて自分も成長できたことの順に特に多かった。

問32子育てをする上で、特に負担に思っていることはどのようなことかについて（複数回答可）、自分の自由な時間が持てない、子育てで出費がかさむ、子育てによる身体の疲れが大きい順に特に多かった。

問34伊東市のこれまでの子ども・子育て支援の取組について、総合的に見た評価について（5段階評価で数字が大きくなるにつれ満足度が高い）は3と回答した方が38.9%と最も多く、5年前と比べると5と回答した方が0.7%で今回の調査では2.7%の結果のため少しであるが、評価していただいている部分も感じられる。不満と感ずることについて（複数回答可）、子どもの生活環境、子育て世帯に対する経済的な支援、保育、子育て支援サービスの内容や質の順に特に多かった。

問36あなたのお住まいの地区は、子育てしやすい環境と感じるかについて（5段階評価で数字が大きくなるにつれ満足度が高い）は子育てしやすいと感じないという方の回答が多く、5年前と比べると子育てしやすいと感じないという回答が増加した結果となった。

問37本市の子育て支援について要望することがあるかについて（複数回答可）は、親子でも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしいという結果が最も多かった。

(イ) 第2期伊東市子ども・子育て支援事業計画骨子案について

(P66～75) アンケート調査が把握について今回報告させていただき、これをもとに子ども・子育て支援事業計画（5か年計画）を策定していくのが本年の事業となっている。これを策定するにあたり量の見込みとして量を計るためのニーズ調査であった。

(ウ) 「量の見込み」の算出について

(P76～84) 国の量の見込みの算出基準が掲載されていますが、第1期子ども・子育て支援事業計画を策定した際、国の示した算出方法を用いたところ、伊東市の実態からだいぶ離れてしまったため、3年目に中間の見直しを行っている。その経過を踏まえ、量の見込みを計る際、国の算出基準を参照することを前提とし、伊東市の独自性（ニーズ調査結果等）を用いて量の見込みを算出する。

エ 第2期伊東市子ども・子育て支援事業計画スケジュールについて

質疑について

ウ 第2期伊東市子ども・子育て支援事業計画について

(ア) ニーズ調査結果について

林 委員        子育てが楽しいという意見が多いと感じた。幼稚園は休園が、保育園は希望者が増える中、施設があるのに子どもが少ない、保育士が少ないという状況にジレンマを感じる。施設の方が多くなり子どもの人数が減少していく現状を早いうちに対応していただきたい。市として施策や方向性を明確に提示していただきたい。保護者もどうにかしたいが、どうすれば良いかがわからない状態。

事務局        この後の議題にもあるように、次回の会議でも案をいただきたいが、子どもの数がどうなっていくかについてはそれに伴い幼稚園、保育園の利用希望者数を出し、施設がそれに対しどれだけ必要かどうかを検討していく。

(イ) 第2期伊東市子ども・子育て支援事業計画骨子案について及び (ウ) 「量の見込み」の算出について

佐藤委員 本計画を令和2年3月末までに策定するとあったが、本会議の他、その先に会議があるのか。

事務局 議題のエ 第2期伊東市子ども・子育て支援事業計画スケジュールについてをご覧ください。本会議で提示した量の見込み算出方法及び骨子案の方向性を決定させていただければ中間案を11月頃までに作成し、11月の子ども子育て会議にて中間案を提示させていただき、同時に計画の検討及びパブリックコメントを諮らせていただき、結果について2月の子ども・子育て会議にて提示及び決定させていただく。市としてどれくらい利用できるようにするか、ニーズに対してそれを確保していく、伊東市の考え方が過不足ではないかを検討していく。市として独りよがりにならず市民の方がどういったことが必要かを見ていく。

佐藤委員 子育てを行う父親・母親が満足感や楽しいと感じないと子どもは増えていかないというところに帰着すると考えられる。

事務局 全国市町村でも、いかに子供の数を増やしていくかが課題となっている。現状こうすればよいという答えは出ていない非常に難しい問題であるが多くの子育て世代が、子育てが楽しい、子育てがしやすいと感じてもらえるよう考えていきたい。よりよいもの築き上げるためにぜひご意見等を本会議でいただきたい。

### 3 報告事項

#### (1) 幼稚園取組事項

##### ア 幼稚園の休園について

鎌田幼稚園及び南幼稚園について令和2年4月1日から休園を実施。現状及び今後の入園見込みから集団保育の確保が難しいため。

#### (2) 保育園取組事項

##### ア 八幡野保育園増築工事について

令和2年度の待機児童解消を目指し保育室の増築を行う。3・4歳児の保育室について18人以上が受け入れ可能な面積とし、テラスから回っている給食用ワゴンが屋内で運搬できるようにする。本工事にて全体として（面積上）受入人数は、計16人増となる。工事は令和2年2月末日を完了の予定。

#### (3) 幼児教育・保育の無償化について（P5～7）

## 4 閉会